

ジェームズ・ヴンシュ

フレデリック・ショパンのエチュード作品10-1ハ長調による変奏曲





ジェームズ・ヴンシュ

James Wunsch

フレデリック・ショパンのエチュード作品10 – 1ハ長調による変奏曲

Variation on Etude Op.10 No.1 C-major

by Frederic Chopin

email: thegroovypianist@protonmail.com

© Copyright 2018 by James Wunsch all rights reserved

この変奏曲について

ショパンのエチュード Op. 10-1 は曲そのものが一つのピアノ技巧上の挑戦といえる。多くのピアニストによって演奏されているとはいえ、この作品を四分音符176のテンポで、明瞭に同時に音楽的に、かつ内に宿る本質的な美しさを表現して演奏することのできる奏者は数少ない。

この練習曲の演奏者として筆者が最も評価できると考えるピアニストとして、とりわけマウリツィオ・ポリーニとスヴァトスラフ・リヒテルの二人を挙げておきたい。

片手だけではなく両手でこのエチュードを演奏することはさらに一段階先のピアノ音楽に到達することであり、奏者には膨大な練習を要求される。右手に対して左手を、しかし三十二分音符分ずらして演奏することは、ピアニストにとっておそらく最大の挑戦のひとつとなるであろう。

この作品の美しさを保持するために編曲者はテンポを168と設定したが、このテンポで演奏することができるピアニストは世界でも極めて少ないと思われる。

ただし、例えインテンポでの演奏が不可能であれ、この作品は遅めの速度で演奏されても非常に美しく響くことに、奏者は練習中気付くことであろう。

したがってこの作品を練習することは決して時間の無駄とはならない。

編曲者自身による音源は2019年初めにCDショップや楽譜店、およびインターネット上で入手可能となります。実りのある練習と成果を祈念いたします。



ジェームズ・ヴンシュ
(James Wunsch)



Variation on Etude No. 1 C-major by Frederic Chopin

for Eve

James Wunsch

Allegro (♩ = 168)

legato

f

Ped. ad lib.



